

# 国語科（書写）学習指導案

第6学年 21名  
指導者 武田 真二郎

## 1 単元 用紙にあわせて書こう～伝えよう！地域の人に「王地秋祭り」～

### 2 単元について

#### (1) 単元設定の理由

新学習指導要領では、第5学年及び第6学年の2内容〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕(2)「ア 用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めるとともに、書く速度を意識して書くこと。」「イ 目的に応じて使用する筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと。」とある。

2学期に入り「筆順と字形」「筆使いと字配り」「行の整え方」「字配り」を学習してきた。本単元では、これまでの学習を生かして「王地秋祭り」のポスターを書く活動を取り入れる。

見る人がわかりやすいポスターにするための大切なポイントを考え、文字の大きさや配列に気を付けて見やすく読みやすい紙面の構成を考える。さらに、より効果的に表現するために文字の大きさに合わせて筆記具を適切に選ぶ。本単元の学習を通して、見やすく読みやすい紙面を作成するための知識・技能を身に付けさせたい。また、「王地秋祭り」を盛り上げよう、地域の方に伝えようという目的意識や相手意識を持たせることで主体的な学習ができるようにしたい。

#### (2) 児童の実態

1学期末に行った書写学習に関するアンケートでは、ほぼ全員がきれいに文字を書きたいと答えている。実際に日記や連絡帳などでは、文字の大きさに注意したり、行の中心に気を付けたりして文字を整えて書こうとしている児童が増えてきた。

王地タイムや総合的な学習の時間に便せんや短冊、その他定型外の用紙を使ってマス目や罫線、補助線のない紙面に文字を書く活動を行ってきた。文字数に合わせて枠を作ったり、罫線や中心線を引いたりするなど工夫して書くことにも慣れてきた。

しかし、大半の児童は、紙面全体を通した効果的な文字の大きさや配列など、用紙全体の見やすさ、読みやすさを考えて書くことはできていない。また、自分なりに工夫して筆やフェルトペンなどいろいろな筆記具を使っているが、効果的な選択も不十分である。

#### (3) 指導にあたって～書写で学んだことの日常化や活用力の育成を図る学習活動の工夫～

本単元は、今までの学習を生かして「王地秋祭り」のポスターの文字を、班で書く学習である。まず、つかむ段階では身近な地域の方に伝えるという点から手書きのよさについて確認し、相手意識を持たせる。そして、見やすく読みやすいポスターにするための大切なポイントを教師の提示したポスターから探らせる。

高める段階では、王地タイムで考えた班の案をもとに用紙にあわせた構成を話し合う。書く内容や文字数によって変わるべきの大きさからスペースや位置を考えたり、筆記具を選んだりするなどの話し合いをもとに効果的な全体構成をする。さらに、分担場所に合わせた文字の大きさや配列を考えた用紙を作成し、練習する。

確かめる段階では、全体の構成をグループでまとめ発表し合い、お互いのよさを認め合う。これらの学習を通して、見やすく読みやすい紙面の作成、スペースを考えた文字群の書字の実現を目指したい。

また、自分たちの学校の行事を地域の方に宣伝し、盛り上げたいという気持ちから生まれる相手意識や目的意識は、子どもたちの学ぶ意欲を高めると考える。そして、これらの学習活動を通して、習得した書写力を日常生活や他の学習活動に生かそうとする意欲につなげたい。

### 3 単元の目標

- (1) 友達と学びながら、意欲的に学習に取り組むことができるようとする。
- (2) 用紙全体との関係を考えて、文字の大きさや配列を工夫し、目的にふさわしい筆記具を選びその特徴を生かして書くことができるようとする。

### 4 単元の評価規準

ア	関心・意欲・態度	<ol style="list-style-type: none"><li>① 自ら課題を見つけ解決し、進んで学習しようとしている。</li><li>② 自分や友達のよさを見付け、認め合おうとしている。</li></ol>
イ	言語についての 知識・理解・技能	<ol style="list-style-type: none"><li>① 用紙にあった文字の大きさや配列などを決めて書くことができる。</li><li>② 目的にあつた筆記具を選び書くことができる。</li></ol>

## 5 単元の指導計画

第1次 ポスターの文字を書こう（書写）・・・・・・・・・・・・・・・・ 2時間（本時1/2）

関連指導

事前 王地秋祭りを成功させよう（総合）・・・・・・・・・・・・・・・・ 1時間

事後 王地秋祭りのポスターに入る絵・写真を考えよう（図工）・・・・・・・・ 1時間

## 6 本時の学習

### （1）目標

- 自分や友達のよさを見付け、意欲的に取り組むことができるようとする。
- 用紙に合わせて文字の大きさや配列を決めて書くことができる。

### （2）展開

過程	児童の活動	教師の指導・支援	具体的評価規準 (評価方法)
つかむ	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2種類の手書きのポスターを見て気を付けたらいい点について話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・誰が見ても、分かりやすく、より効果的に伝わる文字について考えさせる。</li> <li>・ポスターを見て大切なポイントを書写の要素に絞って考えさせる。</li> <li>・筆記具の選択について触れる。</li> </ul>	
	<p>文字の大きさや配列に気を付けて、ポスターの文字を書こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の大きさ</li> <li>・文字の位置</li> <li>・余白　字間　中心</li> </ul>		
高める	<p>2 班で用紙にあった全体の構成を考えて練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班でポイントを生かした構成を工夫する。</li> <li>・書く分担を決め、筆記具を選んで練習をする。</li> <li>・練習文字を見せ合い、アドバイスし合いながら練習を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の大きさや位置について話し合うことができるようする。</li> <li>・スペースを考えて分かりやすい構成を考えさせる。</li> <li>・友達のよさに気付くようする。</li> <li>・基準文字や筆記用具を選べるように用意しておく。</li> <li>・自分の分担場所の大きさに合った練習用紙を作つて練習するように支援する。</li> <li>・鉛筆で補助線を引く、下敷きを作るなどの方法を提案をする。</li> </ul>	ア①（発言・観察） ア②（発言・観察）
確かめる	<p>3 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめ書きをする。</li> <li>・班、全体で相互評価する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすくするために工夫したところを発表し合う。</li> </ul>	イ①（発言・観察） イ①（まとめ書き）
生かす	<p>4 次時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次時の活動への意欲をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習したことを次時の学習に生かせるように意欲付けをする。</li> </ul>	

(3) 評価および指導

① 「十分満足できる」と判断される状況

ア①	自分のめあてをつかみ、進んで意欲的に書こうとしている。
ア②	自分や友達の文字のよさに気付き、学び合い活動ができている。
イ①	用紙に対する文字の大きさや文字の配列に気を付けて、整えて書くことができる。

② 「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導（手だて）

ア①	具体的な観点を提示し、自分のめあてをつかませる。
ア②	見るポイントを示し、友達の文字のよさに気付くことができるようにする。
イ①	用紙と文字の大きさの関係を考え、意識して文字を書くように支援する。